

Press Release

平成 29 年 10 月 17 日
株式会社幹細胞&デバイス研究所 (SCAD)
〒600-8491 京都市下京区鶏鉾町 480 番地
オフィス・ワン四条烏丸 11 階
075-744-1114
<http://scad-kyoto.com/>
scad.info@scad-kyoto.com

シリーズ B 第三者割当増資の完了について

iPS 細胞由来の細胞組織片を開発、製造販売する株式会社幹細胞&デバイス研究所 (Stem Cell & Device Laboratory, Inc. 以下「SCAD」) (本社：京都市下京区、代表取締役：加藤謙介) は、本年 9 月 29 日までに、下記のベンチャーキャピタルと金融機関を引受先*とする総額約 5 億 1 千万円の第三者割当増資を実施致しました。

【第三者割当引受先*と出資額】

京都大学イノベーションキャピタル株式会社 (約 1 億 6 千万円)
SMBC ベンチャーキャピタル株式会社 (約 3 千万円)
ニッセイ・キャピタル株式会社 (約 1 億 6 千万円)
そーせいコーポレートベンチャーキャピタル株式会社 (約 1 億円)
三菱 UFJ キャピタル株式会社 (約 3 千万円)
京銀リース・キャピタル株式会社 (約 3 千万円)

今回の資金調達により、細胞製品の更なる高機能化、品質安定化、量産化への取り組みを加速させて参ります。

【幹細胞&デバイス研究所 (SCAD) の概要】

SCAD は京都大学物質 - 細胞統合システム拠点 (iCeMS) を設立した中辻憲夫名誉教授らが開発した多能性幹細胞関連技術やナノテクノロジー/マイクロエンジニアリングの研究成果に独自の開発技術を加えて心筋等の組織片を開発しており、創薬アッセイ市場で活用され、そのプロセスを大きく効率化させることを目指しています。

製薬業界では、iPS 細胞由来の心筋細胞を創薬プロセスに応用する検討が進められていますが、本格的な活用には、高い機能性 (成熟性) とその安定性の向上が未だ重要な課

* それぞれが運営するファンドにおいて引受

題となっています。SCAD ではこれらの課題を克服する開発や新たな価値を持つ評価系の開発を進めており、次世代の心筋組織片として、特に高い成熟性と機能性を持つことを特徴としています。

SCAD では、心筋組織片の出荷を開始しており、その高い機能性の評価を受けて受託アッセイも開始しています。今回の資金調達によって、さらに高度な細胞製品の開発を加速させ、早期に創薬プロセスの効率化に貢献して参ります。また、これら先進的な研究成果の実用化と事業化を通じて、健康社会への貢献を進めて参ります。

以上